

長崎県長崎市の観光施設における 多言語対応の現状

— 韓国語対応の課題を中心に —

丁 仁 京*

1. はじめに

日本を訪れる外国人旅行者数は2013年に1,000万人、2018年には3,000万人を超え、2019年にはさらに増加している。また、2018年の各国からのインバウンド外客数をみると、中国が838万人(26.9%)、次いで韓国が754万人(24.2%)、3番目に台湾が476万人(15.3%)を占めている(日本政府観光局データより)¹。

日本政府は2020年までにインバウンド旅行者数を4,000万人規模とすることを目的としていた(日本政府観光局2000-2019)が、COVID-19により計画通りにはならず、COVID-19の終息後に盛り返すことが期待されている。

また、図1に示したように、2010年から2021年までの目的別インバウンド韓国人観光客数の割合を見ると、2013年には全体の245万人のうち197万人(80%)を占めており、5年後の2018年には、全体の756万人のうち、698万人(92.6%)を占めるに至っている。しかし、外国人観光客数の2018年と2019年を比べたとき、2019年は前年より全体的に増加しているにもかかわらず、韓国人インバウンドについては日韓関係悪化により、前年より約194万人も減少している。

* 福岡大学共通教育センター外国語講師

¹ 台湾に次いで、香港(221万人)、米国(153万人)、タイ(113万人)の順である。

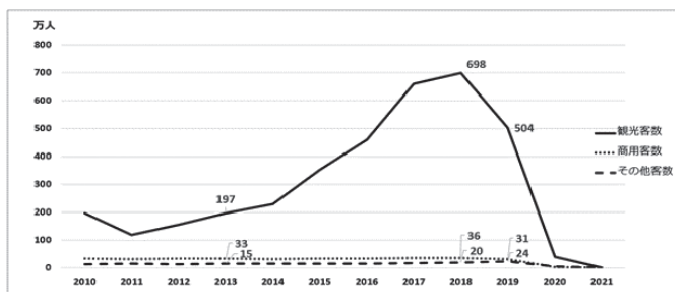


図1 目的別訪日韓国人数の推移（日本政府観光局データより作成）

2003年の観光立国宣言を皮切りに国を挙げて訪日外国人旅行者誘致が進められる中で、観光関係施設における多言語対応も充実してきた（観光庁「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」2014）。特に中国、韓国、台湾といった東アジアの近隣諸国からのインバウンド旅行者が多数を占める現状に対応し、全国の公共交通機関、観光関係施設の標識、案内板等は既に大部分、日本語・英語・中国語・韓国語の4言語で表示することが一般化している。しかしながら、現状では一定の基準や指針があるわけではなく、記述方法や解説の有無はそれぞれの地域や施設に任されており様ではない。

インバウンド観光促進の目的の一つは、外国人に日本の歴史や文化を実際に見聞することにより、日本を理解し親しみを持ってもらうことである。その点、北部九州の長崎県は東アジアの各地域と歴史的に関係する観光資源が多く、これらを韓国語で適切に解説することは日韓の相互理解に大きく貢献するものであると考えられる。そこで本稿では、長崎県長崎市の観光施設における標識・サインや案内解説板、展示物の解説文などの多言語対応の現状を調査し、韓国語対応の課題と改善策を考察するものである²。

² 本研究は、朝鮮語教育学会第89回例会（2022年3月16日）において発表した内容を加筆修正し、発展させたものである。なお、本研究は日本学術振興会科学研究費・基盤

2. 長崎県の概要とインバウンド状況

長崎県は東に佐賀県と隣接する他は、周囲を海に囲まれていて、対馬、壱岐、五島列島などの島々が971あり、日本で最も島の多い県である。また、韓国人にとってより近く、気軽に往来できる外国と言え、歴史的にも韓国と深い係わりを持っている。古くから中国大陸や朝鮮半島からの文化を受け入れ、江戸時代には西洋文化の窓口として栄えたことにより、東洋と西洋が融合した独特の文化が育まれた場所としても有名である。



図2 長崎県の位置

日本においては、ビザ要件の緩和などのこれまでの様々な取り組みにより、2013年から2018年までインバウンド外国人旅行者数が6年連続で過去最高を更新する中、長崎県においては、台湾人ツアー客が減少したものの、ジンエアー（JIN AIR）の長崎―ソウル線が就航したことなどによる影響もあり、対馬への韓国人客数が連続して過去最高を記録した。長崎県を訪れた観光客延べ数が多い国・地域別に見ると、2013年から2019年まで7年連続で韓国が最も多く、2020年はCOVID-19の世界的な流行に伴い、観光客数が大きく減少しているが、アメリカに次いで2番目に多いという結果になっている（長崎県文化観光国際部観光振興課「長崎県観光統計」より）。図3は、2013年から2020年まで長崎県を訪れた韓国人延べ宿泊者数である。これは従業員数10人以上の施設に関する調査であり、小規模の施設は含まれていないため、実際の数字はもっと多いと思われる。

研究（C）「隣接国間の相互理解に資する観光関連施設の多言語対応－北部九州における韓国語対応－」（研究課題番号：20K12446）の助成を受けたものである。

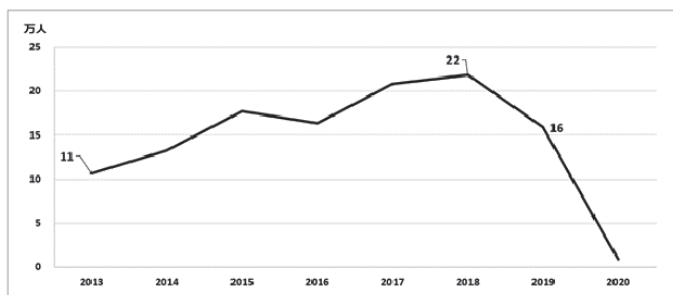


図3 訪長崎県韓国人延べ宿泊者数（日本政府観光局データより作成）

3. 先行研究

近年、街中や観光施設に設置された案内板は、街の景観の一部として「言語景観」という概念でとらえられ、社会言語学の一分野として研究が進められている。

言語景観 (linguistic landscape) は、「道路標識、広告看板、地名表示、店名表示、官庁の標識などに含まれるか私的な言語の総体」と定義されている (バックハウス 2005)。一方、多言語景観は、「公共の場において様々な形で知覚される、外国語が複合的に形成する景観」と定義されている (庄司 2009)。

言語景観についての先行研究としては、言語種分布の変遷と社会の有りようとのかかわりを論じたもの (庄司 2009、井上 2009 など)、言語景観と行政の関係 (バックハウス 2009)、表記に関する問題や注意書きのあり方 (本田他 2017) に関する研究が見られる。

観光と言語の関連にいち早く注目した研究としては、山川 (2010) がある。山川 (2010: 249) は、観光地の観光推進における言語の扱いについて「言語とは、個人レベルの話ではなく、地域社会のインフラとさえいえる」としている。観光地における多言語状況を調査した研究としては、北海道ニセコ (加藤 2009)、大分県別府 (松田 2009)、京都市 (濱口 2021) など、各地の観光施設

における多言語表示の現状把握や課題が整理されている。また、九州・沖縄地方における韓国語対応については、沖縄県（李 2018, 2019）、長崎県対馬（長谷川 2021）、長崎市（丁 2022）、佐賀県有田町（長谷川 2022）、などが挙げられる。李（2018, 2019）は、沖縄県の観光場面における標識の表記や韓国語訳の問題について検討しつつ、他地域の調査結果と比較研究を行っている。調査の結果、多言語表記の整備体制における地域間の差に加え、韓国語表記における相違・混在の問題も各地で見られたと報告している。長谷川（2021）は、対馬の観光施設の韓国語案内解説板を調査し、使用されている言語種の様相をめぐり、文化的背景の違いを考慮する必要性と翻訳の質の確保の重要性を主張している。

さらに藤井（2014）は言語景観に関して、観光と強く結びついた企業であるJR九州を中心に聞き取り調査を通して、言語サービスの主体が国、地方自治体、企業、個人など非常に多岐にわたり、それぞれを管轄する部署が異なることもあって、全体として統一した方向性を導き出すことは非常に難しいと指摘している。

本研究では以上の先行研究を踏まえながら、韓国人観光客を受け入れる長崎市の主要観光施設における標識・サインや案内解説板、展示物の解説文などの課題を考察し改善策を探るためのスタートとして、その現状を調査し、報告するものである。

4. 調査概要

4.1. 調査の方法

2019年11月～2021年12月の間に3度長崎県を訪れ、長崎市と対馬市を中心に韓国人旅行者がよく訪れることで知られる観光施設周辺を巡り、標識・サインや案内解説板、展示物の解説文などを写真に収めた。また、パンフレット・リーフレットの収集、及びICレコーダーなどを使い、案内放送の録音を

行った。今回は長崎市に限定して調査結果を考察する³。

観光庁（2014）は、多言語対応の改善のためにガイドラインを作成し公表しているが、今回、韓国語対応の対象となる種類は、観光庁（2014）が提示した「多言語対応の対象となる情報の種類」に従い調査を行った。名称・標識・サイン・情報系は、二分され、禁止・注意を促すタイプ（タイプA）、名称・案内・誘導・位置を示すタイプ（タイプB）とし、また、解説系は、案内板や展示物等の理解のために文章で解説をしているタイプ（タイプC）である。

また、観光庁（2014）では、多言語表記の表示順について、「日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語」の順とし、さらに、繁体字を表記する場合には、「日本語、英語、中国語（簡体字）、韓国語、中国語（繁体字）」の順とすると提示している。本稿では、多言語対応の有無を示す際に、日本語はJ、英語はE、中国語（簡体字）はC、韓国語はK、中国語（繁体字）はTで表示する。

4.2. 長崎市の観光施設・場所

調査対象となる長崎市の観光施設・場所を大きく3つのエリアに分け、調査を行った。〈Ⅰ 中心エリア〉は、長崎・西彼エリアであり、江戸時代から明治時代にかけての外国の文化の影響を色濃く残している。〈Ⅱ 端島（通称：軍艦島）エリア〉は、「明治日本の産業革命遺産」の史跡が残っている島である。〈Ⅲ 外海エリア〉は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタンの関連遺産」の史跡が残っている。

その他、観光施設ではないが、観光客が来日して最初に接する交通機関施設（長崎空港、長崎駅、長崎港松が枝国際ターミナル等）においても調査を行った。

³ 韓国人向けのツアー広告やブログ、SNS、YouTubeなどを参考に観光施設を選んだ。

〈Ⅰ 中心エリア〉

- ①平和公園
- ②長崎原爆資料館
- ③長崎市旧香港上海銀行長崎支店
記念館（国指定重要文化財）
- ④聖福寺
- ⑤福濟寺
- ⑥大浦天主堂（世界文化遺産）
- ⑦大浦天主堂キリシタン博物館
- ⑧グラバー園
- ⑨出島（国指定史跡）
- ⑩軍艦島デジタルミュージアム



図4 長崎市の調査対象施設の位置

〈Ⅱ 端島（通称：軍艦島）エリア〉

- ⑪軍艦島（世界文化遺産）

〈Ⅲ 外海エリア〉

- ⑫大野教会堂（世界文化遺産）
- ⑬長崎市外海民俗資料館
- ⑭ド・ロ神父記念館
- ⑮出津教会堂（世界文化遺産）
- ⑯枯松神社

5. 結果と考察

5.1. 公共交通機関における多言語対応

まず、観光客が来日して初めて接する交通機関施設である長崎空港や長崎駅、路面電車・観光バス、長崎港松が枝国際ターミナルの多言語対応について検討することにする。

長崎空港では、禁止・注意を促す表示は〔JEKC〕4言語対応で、空港内の案内サインは、基本的に日本語・英語・中国語（簡体字）・韓国語・中国語（繁体字）の4言語（5字体）で表記してある。提示順は、〔JEKCT〕と〔JECTK〕の2つのパターンが見られた。トイレ案内表示は〔JEKCT〕4言語（5字体）対応、使用方法については〔JECTK〕〔JECK〕で対応されている。また、長崎空港アクセス道路図・観光マップは〔JEKCT〕4言語（5字体）対応で、空港リムジンバスやタクシーの案内表示は〔JECTK〕で対応されている。このような施設は外国からの観光客が多いということもあり、多言語対応が進んでいることがわかる。

次に長崎駅では、駅構内案内図は日本語のみで、誘導・案内表示は〔JECK〕〔JEK〕で対応、きっぷ運賃表の案内図は〔JE〕対応、自動きっぷ売り場の案内は〔JECK〕対応、駅外にある誘導案内は〔JECK〕4言語で対応されている。バス乗り場やタクシー乗り場の誘導・案内表示は〔JEKC〕4言語対応であり、自動きっぷ売り場、路線図は、日本語と英語のみで韓国語対応はなかった。

また、市内の路面電車や観光バス停留所にある案内表示も、日本語と英語表記のみで韓国語の対応はない。一方、路面電車内電光掲示板と車内放送による停留所の案内は〔JEKC〕4言語で対応されている。グラバー園入口にはバス路線図が設置されており、〔JECTK〕4言語（5字体）で表記されている。



図 5-6 路面電車案内板〔JE〕

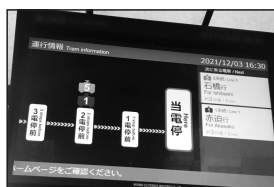


図 7 車内電光掲示板〔JECK〕

最後に、長崎港松が枝国際ターミナルは、名称や案内サインは〔JCKE〕4

言語で表記されていたが、COVID-19の影響により閉館されていたので施設内のサイン等は確認できなかった。

5.2. 観光施設等における多言語対応

観光施設等における多言語対応について、情報系と解説系に分けて検討することとし、うち情報系においては4.1で示した「タイプA」と「タイプB」に分けて検討・考察を進める。

5.2.1. 情報系の多言語対応

観光施設等に設置された情報系の使用言語を、禁止・注意を促す「タイプA」と、名称・案内・誘導・位置を示す「タイプB」とに分けて検討する。以下、各施設に設置された情報系の使用言語をまとめたものを表1に示す。

表1 情報系の使用言語⁴

| 設置対象 | タイプA | タイプB |
|--------------------|-----------------------------------|--------------------|
| ①平和公園 | JECK, JE, J | JECK, |
| ②長崎原爆資料館 | JECK, JE, J | JECK, JE |
| ③長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 | ECTKJ, JE | JEKC, JECK |
| ④聖福寺 | J | JECK |
| ⑤福濟寺 | J | JECK |
| ⑥大浦天主堂 | JEKCT, JEK, J | JECK, JE |
| ⑦大浦天主堂キリシタン博物館 | JEK, JKE, JE | JE |
| ⑧グラバー園 | JECK, JEKC, JEK, JE, J | JECKT, JECK, JE, J |
| ⑨出島 ⁵ | JKCTENPRDF, JKCTE, JECK, JE, J | JEKCT, JECK, JE |

⁴ 筆者が調査に訪れた期間中に見られた標識・サイン等であり、すべてを網羅したものではない。

⁵ 言語表記のうち、NPRDFはそれぞれオランダ語・ポルトガル語・ロシア語・ドイツ語・フランス語を示している。

| | | |
|----------------|-------------|------------|
| ⑩軍艦島デジタルミュージアム | JEKC, JE | JE |
| ⑪軍艦島 | JEKC, JECK | JEKC, JECK |
| ⑫大野教会堂 | JE, J | JEKC, J |
| ⑬長崎市外海民俗資料館 | JECK, JE, J | JEKCT, JE |
| ⑭ド・ロ神父記念館 | JECK, JE, J | JECK, JE |
| ⑮出津教会堂 | JE, J | JECK |
| ⑯枯松神社 | J | JECK, J |

表1で示したように、禁止・注意を促す「タイプA」の多くは韓国語対応がされている。韓国語対応が見られない場合は、ほとんど中国語対応も見られず、その場合には日本語と英語のみの表記である。中国語が見られない、図11, 12, 14, 16などは、「足元注意」「飲食物の持出禁止」「館内撮影禁止」のように漢字を見れば中国人が理解できると考えた日本人が作成したように推測される。また、日本語と英語の表記しかないところや日本語のみのところも見られた。出島では禁止・注意サインが〔JKCTE〕の他にオランダ語・ポルトガル語・ロシア語・ドイツ語・フランス語のように9言語（10字体）で対応されているところも何カ所もあった（図15）。「タイプA」の多言語表記の表示順を見ると、〔JECK〕順の表示が多く、その他、〔JEKCT〕、〔JKE〕、〔JEK〕順も見られる。



図8-9 ①ゴミ投棄・喫煙禁止〔JECK〕⁶、
接触禁止〔JEKC〕

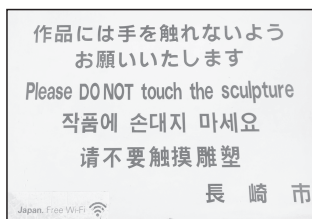


図10 ③注意〔JECK〕

⁶ 図の提示順は「設置場所（表1の番号で提示）－表示内容－使用言語」である。



図 11 ⑧喫煙禁止等〔JE〕



図 12 ⑦注意〔JKE〕



図 13 ⑨接触禁止〔JECK〕



図 14 ⑦飲食物持
出禁止〔JE〕

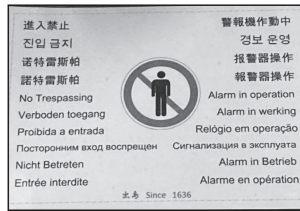


図 15 ⑨進入禁止等
〔JKCTENPRDF〕



図 16 ⑦撮影禁止〔JEK〕

次に、名称・案内・誘導・位置を示す「タイプB」の使用言語状況を検討する。表1からわかるように、「タイプB」においてはほとんどが韓国語で対応されていることがわかる。施設の案内図や誘導案内、入場料金、開場時間などについてはまちまちで多言語対応されていない施設もあった。例えば、出島全体案内図の場合、施設内の名称は〔JEKCT〕4言語（5字体）表記で対応されているが、施設の案内板は日本語のみの表記で多言語対応されていない。

また、「順路」や「出口」などの誘導・案内表示は〔JECK〕4言語表記と〔JE〕のみの表記があり、韓国語で対応されていない施設もある。施設内にあるトイレの案内や使用法は〔JECK〕〔ECKJ〕で対応されているが、日本語のみのところも見られた。



図 17-18 ⑧誘導・案内〔JECK〕〔JEC〕



図 19 ⑦誘導・案内〔JECK〕



図 20-21 ⑨誘導・案内〔JE〕、案内図〔JEKCT〕



図 22 ⑩館内案内図〔JE〕



図 23-24 道路標識〔JECK〕〔JEK〕



図 25 誘導・案内〔JEK〕

施設の道路標識は、地方自治体が国土交通省に占有許可を取ってから設置するため、順番を含めた多言語対応がきちんとなされている。しかし設置時期によって多言語対応に差が出ており（〔JECK〕〔JEK〕〔JE〕等）、また、古いも

のについては英語表記しかなかった。「タイプB」の多言語表記の表示を見ると、〔JECK〕順の表示が多く、その他、〔JECTK〕、〔JEKCT〕順も見られる。

5.2.2. 情報系の多言語対応

次に、観光施設等の案内板や展示物の理解のため解説を付けている「タイプC」を検討する。以下、各施設に設置された情報系の使用言語をまとめたものを表2に示す。

表2 解説系の使用言語

| 設置対象 | 案内解説板 | 展示物の解説文 |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| ①平和公園 | JEKC, JECK, JE, J | JEKC, JECK, JE, J |
| ②長崎原爆資料館 | JECK, JEKC | JECK, JEKC |
| ③長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 | JECK | JEKC, J |
| ④聖福寺 | JECK | * |
| ⑤福濟寺 | JEKC, J | J |
| ⑥大浦天主堂 | JEK, JE | JE |
| ⑦大浦天主堂キリシタン博物館 | JE | JEK, JE |
| ⑧グラバー園 | JEKC, JE | JE |
| ⑨出島 | JEKC, JE | JE, J |
| ⑩軍艦島デジタルミュージアム | JEKC | JEKC, JE |
| ⑪軍艦島 | JE | ** |
| ⑫大野教会堂 | JEKC, JE | ** |
| ⑬長外海民俗資料館 | JE | J |
| ⑭ド・ロ神父記念館 | JETCK, JE | J |
| ⑮出津教会堂 | JECK, JE, J | *** |
| ⑯枯松神社 | JK | *** |

(*工事中 **非公開 ***展示物なし)

表2で示したように案内解説板はほとんど韓国語で対応されていることがわかる。一方、展示物の解説文においては、韓国語対応されていないところが多く、韓国語対応が見られない場合は〔JE〕2言語で表記している。「タイプC」

の多言語表記の表示順を見ると、〔JE〕〔JEKC〕〔JECK〕順の表示が多く、その他、〔JEK〕〔JETCK〕〔JK〕順も見られた。

①平和公園内にある案内解説板は、〔JECK/JEKC〕4言語での対応、英語のみの対応、また、日本語のみで全く多言語対応していないものも見られた。平和公園総合案内解説板は〔JECK〕4言語で、平和祈念像・平和の泉は〔JECK〕4言語表記で対応されている。②長崎原爆資料館の展示物の解説文は、基本的に〔JECK/JEKC〕4言語表記で対応されている。また「1～34」の番号が振ってある展示資料については、音声ガイドの対応及びQRコードで展示資料の解説文が閲覧できる。QRコード対応言語は、アラビア語、中国語、ドイツ語、英語、スペイン語、フランス語、日本語、韓国語、オランダ語、ポルトガル語、ロシア語の11ヶ国語である。また、被害者の手記や証言などを収めたビデオ資料は日本語、英語、中国語、韓国語で視聴することができる。

③長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館では、パネル案内が設置されており、〔JECK〕4言語対応で、銀行の業務や営業風景、旧香港上海銀行長崎支店の記録、長崎の近代交流史等が視聴できる。また、展示物の一部は〔JEKC〕4言語対応と日本語のみの表示もあった。

④聖福寺と⑤福濟寺においては、入口に設置されている施設の案内解説板は〔JEKC〕で対応されているが、福濟寺内の観音像や鐘などについての解説はすべて日本語表記しかなかった。

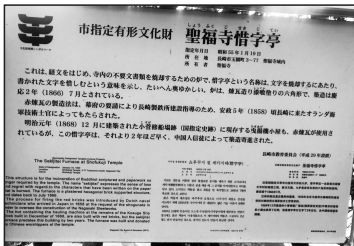


図 26 ④案内解説板〔JEKC〕

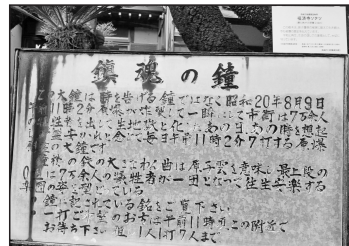


図 27 ⑤寺内の解説板〔J〕

⑥大浦天主堂は、2018年にユネスコの世界文化遺産に登録された「長崎と長草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つでもあるが、案内解説板は〔JEK〕3言語で対応されていた。また、⑥大浦天主堂と⑦大浦天主堂キリシタン博物館の堂内の展示物の一部は韓国語で対応されているものの、ほとんどは日本語と英語の2言語対応であった⁷。⑧グラバー園には、伝統的建造物が多く存在し、旧グラバー住宅は「明治日本の産業革命遺産」の構成資産にも登録されている。しかしながら日本人のみならず外国人観光客が訪れるであろうグラバー園内にある施設の展示物の解説文は、基本的に日本語と英語の2言語対応であった。また、旧グラバー住宅の敷地にある「三菱重工長崎造船所」及び「軍艦島」に関する案内解説板はすべて日本語と英語のみの表記であった。幕末から明治の長崎の歴史がわかる貴重な観光施設であるにも関わらず、案内解説板や展示物の解説文が多言語対応されていない施設も多く、早急な多言語対応サービスが必要と思われる。

⑨出島は施設の名称や展示物の作品名は〔JEKC〕4言語で対応されているが、案内解説板は〔JEKC〕と〔JE〕で対応、展示物の解説文はほとんど〔JE〕2言語対応であった。

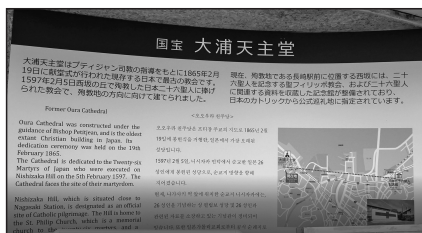


図 28 ⑥案内解説板〔JEK〕

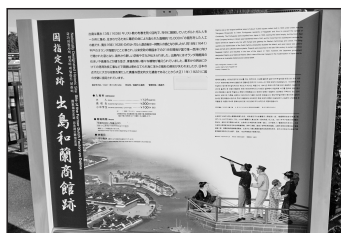


図 29 ⑨案内解説板〔JEKC〕

⁷ グラバー園の公式ホームページ及びYouTubeにおいても、日本語と英語のみである。



図 30 産業革命遺産解説板〔JE〕

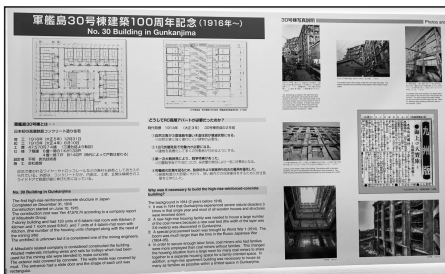


図 31 軍艦島関連解説板〔JE〕

⑩軍艦島デジタルミュージアムでは、軍艦島の歴史を映像、資料によって展示紹介している。展示物は基本的に〔JE〕2言語対応であり、一部〔JEKC〕4言語で対応されている。また、映像やインタビューについても一部韓国語対応がされている。また、軍艦島デジタルミュージアムの公式ホームページには〔JECT〕3言語（4字体）で対応がされているが、韓国語対応はなかった。

⑪軍艦島は、「見学施設」以外は立ち入ることができず、基本的に案内係によって解説がなされる。案内係は日本人であり、写真を見せながら日本語で解説する。「見学施設」にある禁止・注意を示す表示が2つあり、〔JEKC〕と〔JECK〕で対応されている。図 32-33 の注意案内は、見学施設における注意事項5つと見学施設での禁止行為6つがピクトグラムと一緒に表示されていた。また、グラバー住宅に設置されていた、図 30「産業革命遺産」解説板と同じ内容の案内解説板が設置されていたが、やはり〔JE〕2言語表記で地名や案内解説板などへの韓国語対応は一切なかった。また、軍艦島ツアークルーザーの中で案内係によるライブの説明があるが、すべて日本語で行われている。なお、ビデオ映像にも英語字幕は付いているが、その他の言語サービスはなかった（図 34）。また、クルーザーの船内に禁止・注意などの案内表示も〔JE〕のみで、救命胴衣着用方法についての案内も日本語と英語の2言語の対応であった。

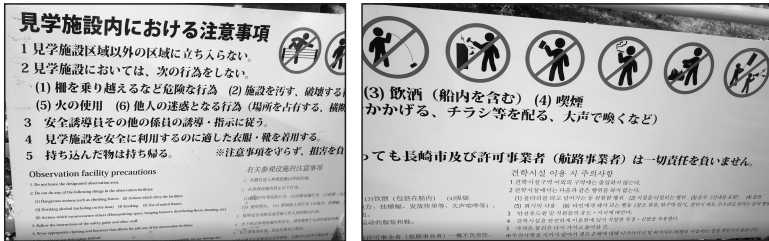


図 32-33 ⑪注意事項案内〔JECK〕



図 34 軍艦島のビデオ映像〔JE〕



図 35 ⑪立入禁止〔JECK〕

外海エリアの世界文化遺産である⑫大野教会堂、⑭ド・ロ神父記念館、⑮出津教会堂の案内解説板は、基本的にそれぞれ〔JETCK〕4言語（5字体）と〔JECK〕4言語で対応して、一部は日本語と英語表記しかないところもあった。大野教会堂の近くにある、「外海の石積集落景観」の案内解説板は〔JECK〕4言語対応であり、案内図の解説文は日本語と英語の2言語で対応されている。また、「天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と「外海の大野集落」の案内解説板は日本語と英語表記しかなかった。なお、⑭ド・ロ神父記念館の館内に展示されている作品の名称をはじめ、作品についての解説は日本語しかなく、英語をはじめ多言語対応の必要性が望まれる。⑯外国人宣教師を祀る国内に3ヶ所しかないキリシタン神社である枯松神社の案内解説板は、日本語と英語の2言語対応であった。

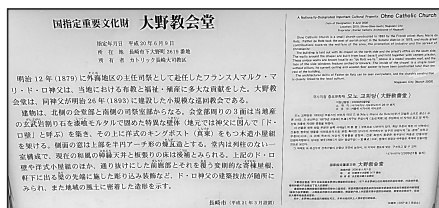


図 36 ⑫案内解説板〔JEKC〕



図 37 石積集落景観案内解説板〔JECK〕

5.2.3. パンフレットとリーフレットにおける多言語対応

次に、観光施設等におけるパンフレットとリーフレットなどによる多言語対応を検討する。

長崎マップのパンフレットは、〔JECTK〕4言語（5字体）で、②長崎原爆資料館のリーフレットは〔JECKT〕4言語（5文字体）の他にフランス語、ロシア語で作成されている。また、⑨出島と⑩軍艦島のリーフレットは〔JECK〕4言語で作成されており、基本的に韓国語対応ができています。一方、⑧グラバー園のルートマップ、⑦大浦天主堂、「長崎と天草地方潜伏キリシタン関連遺産」のリーフレットは日本語版しかなく、多言語対応されていない。ただし、「大浦天主堂物語」という冊子が〔JEK〕3言語で作成されており、冊子から大浦天主堂の設立と歴史についての情報を得ることができる。また、外海エリアの観光案内パンフレット、外海の石積集落景観のパンフレット、ド・ロ神父記念館のリーフレットは韓国語版があるが、外海歴史民俗資料館と大野教会堂・出津教会堂のリーフレットは日本語版しかなかった。

5.2.4. ウェブサイトにおける多言語対応

次に長崎県観光関連公式サイトとしては、①長崎県観光振興課と一般社団法人長崎県観光連盟が運営する長崎県の公式観光・旅行サイト「ながさき旅ネット」、②長崎市公式観光サイト「travel nagasaki」、③世界遺産「長崎と天草地

方の潜伏キリシタン関連遺産」、④「おらしょー ころ旅」、⑤外海観光サイト「そとめぐり」を検討する。これらのサイトは観光施設等の紹介解説文が載っている。ウェブサイトの接続は2022年1月から9月の間で行った。

①「ながさき旅ネット」は、PC版、スマホ版とも「JECTK」の4言語（5字体）対応である。本サイトには、長崎県のイベント、グルメ、交通アクセス、宿泊施設、モデルコース等の情報を総合的に掲載されており、旅行に関する基本的な情報や観光施設に関する情報が得られる。「ECTK」版には「外国人観光客の受入れ対応に関するガイドライン〈日本観光庁〉」が追加されている。②長崎市公式観光サイトである「travel nagasaki」の韓国語版は自動的に、①「ながさき旅ネット」の韓国語版に飛ぶようになっている。③「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、総合的な情報発信サイトであり、QRコードで読み取ると、詳細な内容が見られる。潜伏キリシタンに関する歴史、構成資産の地図、各種パンフレットや動画、現地で立ち寄り可能な資料館、アクセス方法、教会堂見学の受付窓口等の情報が掲載されている。QRコード対応は「JEKCT」4言語（5字体）の他に、フランス語、スペイン語でも対応されている。また、紹介動画は日本語と英語で作成されているが、韓国語には対応されていない。④「おらしょー ころ旅」は長崎と天草地方のキリスト教関連歴史文化遺産群ウェブサイトであり、世界遺産に関する情報やキリスト教関連の歴史文化遺産群を訪ね歩く旅を紹介している。「JEKCT」4言語（5字体）の他にフランス語で対応されている。⑤「そとめぐり」は外海エリアの位置や歴史ある教会、イベント、グルメ、交通アクセス、宿泊施設、モデルコースなどの情報が載っているが日本語版のみである。

6. 韓国語対応の課題

まず、禁止・注意を促す「タイプA」は基本的に韓国語対応がされているが、韓国語対応が見られない場合は「JE」のみの表記となっていた。これは、ピ

クトグラム（絵文字）でわかるようなサインは省略されやすいからではないかと推測される。しかし、ピクトグラムがない場合に韓国語対応がないものもあった。また、タイプ A の中には、表 3（図 38-42）に示したように、韓国語のスペルミス（(a) (b)）や直訳で意味が不自然なもの（(c) (d) (e)）も見られ、改善の必要性があると思われる。

表 3 韓国語のスペルミス及び翻訳ミス

| 日本語 | 韓国語 | 修正・提案 |
|------------------------|---|-------------------------|
| 立入禁止 (a) | 추립 금지 | 출입 금지 |
| 自動きつぷうりば (b) | 자동애표기 | 자동매표기 |
| 西口 (c) | 서구 출구 | 서쪽 출구 |
| ポケットの中はすべて出してください。(d) | 당신의 포켓 모두를 꺼내 주세요. (あなたのポケットのすべてを出してください。) | 주머니에 있는 소지품을 모두 꺼내 주세요. |
| 出発前にお客様ご自身でご準備願います。(e) | 출발전에 손님으로 준비 바랍니다. (出発前にお客さんで準備願います。) | 출발하기 전에 직접 준비하십시오. |



図 38 グラバー園の禁止案内 (a)

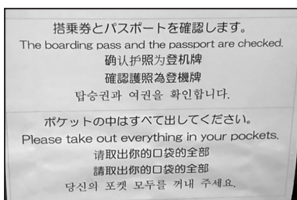


図 39-40 長崎空港からの案内 (d), (e)



図 41 長崎駅構外案内 (b)



図 42 長崎駅構内の誘導案内 (c)

次に、名称・案内・誘導・位置を示す「タイプB」の場合も、基本的には韓国語の対応がなされている。一方、公共交通機関における路線図や停留所にある案内板は、ほとんど〔JE〕で対応されていて、韓国語表記がないのが現状であり、改善が必要であろうと思われる。また、このタイプBにもスペルミスや、同じ語彙でも幾つかの違う訳が散見され（表4）、統一表記が望まれる。

表4 禁止・注意表示の韓国語対応

| 日本語 | 韓国語 | 観光庁の対訳例 |
|------|-------------------------------------|-----------------|
| 立入禁止 | 출입 금지, 진입 금지 (出入禁止、進入禁止) | 출입금지 (出入禁止) |
| 足元注意 | 도보 주의, 보행 주의, 주의 (徒歩注意、歩行注意、注意) | 발밑조심 (足元注意) |
| 順路 | 순서, 진행 방향, 관람 코스 (順序、進行方向、観覧コース) | 이동 경로 (移動経路) |

観光庁（2014）「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」には、多言語対応言語の代表例として、英語・中国語・韓国語の3言語で、400以上の用語・文例について対訳語を記載している。しかし、設置団体や設置時期によってはばらつきが見られており、この点については是非地方自治体を中心となってガイドラインに記載された対訳語を優先的に用いたり修正をしたりするなど、統一性・連続性に関して現状のものを変えていくことが期待される。

次に、観光施設等に設置されている案内解説板や展示物の解説文の「タイプC」においては、韓国語対応されていないものも多く、また、韓国語対応が見られない場合は〔JE〕のみで表記されており、韓国語解説文が必要だと思われる。また、韓国語解説文は基本的に日本語の内容をそのまま訳したものがほとんどであるが、解説文の内容においては、いくつかの問題点も見られた。

まず、平和公園の敷地内にある「平和の泉⁸」の案内解説文の中に、韓国語訳のスペルミスが見られる(図43)。日本語の「象徴して」が「상징하교」で表記されているが、正しくは、「상징하교」である。

| | |
|--|--|
| | <p>〔日本語〕 刻々と変化する水形は、平和のはとの羽ばたきを形どり鶴の港といわれる長崎港のつるも象徴しています。</p> <p>〔韓国語〕 시시각각 변화하는 물의 형태는, 평화의 상징인 비둘기의 날개짓을 나타내고 있으며, 학의 항구로 불리는 나가사키항의 학도 상징하교 있습니다.</p> |
|--|--|

図43 「平和の泉」案内版解説文(JECK)

その他、軍艦島リーフレットの「閉山時の建物の配置図」の解説文に文の省略と語彙の翻訳ミスが見られた。

図44 軍艦島の韓国語版リーフレット

⁸ 水を求めながら亡くなった原爆犠牲者の冥福を祈り、昭和44年(1969年)につくられたものである。

〔日本語〕

①総合事務所

(省略) 綺麗な浴槽に入る前に荒洗いを行っていた浴槽はいつも真っ黒だったそうです。

〔韓国語〕

①종합사무소

(省略) 욕조는 언제나 새카맣습니다.

日本語の「いつも」が「언제는」で訳されているが、正しくは、「언제나」であり、日本語の波線の部分はすべて省略されている。

〔日本語〕

②30号棟・31号棟アパート

1916（大正5）年に建てられた30号アパートは、日本最古の7階建て鉄筋コンクリート造の高層アパートといわれています。鉱員社宅として建設され、内庭には吹き抜きの廊下と階段があり、地下には売店もありました。31号棟鉱員社宅には、地階に一般用の共同浴槽があり、1階には郵便局や理髪店も設置されていました。

〔韓国語〕

②30호동 31호동 아파트

1916년에 세워진 30호 아파트는 ‘글로벌 하우스’로 불렸으며 일본에서 가장 오래된 7층 철근 콘크리트 고층 아파트라고 합니다. 광원사택으로 건설되어 안쪽 뜰에는 아트리움 형태의 복도와 계단이 있으며 1층에는 우체국과 이발소도 설치되어 있었습니다.

日本語の「鉱員社宅」を「광원사택」で訳しているが、「鉱員」は韓国ではあまりなじみのない語彙であり、①「광부의 사택」（鉱夫の社宅）にするか、②「광원（광부를 대접하여 부르는 말）사택」のように「鉱員（鉱夫の丁寧な言い方）」鉱員の意味を補足するか、③「광원（鑛員）사택」のように、漢字も併記して表記することを提案したい。また、日本語の波線の部分はすべて省略されている。

〔日本語〕

③貯炭ベルトコンベアー

精炭（精選された石炭）は、このベルトコンベアーによって貯炭場に畜えられ、石炭運搬船に積み込まれました。今はその支柱が残るのみです。

〔韓国語〕

③저탄 벨트 컨베이어

정탄 (정선된 석탄) 은 이 벨트컨베이어로 저탄장에 저장하고 석탄운반선에 실었습니다. 지금은 그 기둥만이 남아 있습니다.

日本語の「貯炭」と「貯炭場」がそれぞれ「저탄」「저탄장」と訳されているが、「저탄장 (석탄을 저장하여 두는 곳)」(貯炭場 (石炭を貯蔵しておく場所)) または「저탄장 (貯炭場: ~)」のように、よりわかりやすい説明文を補足するか、漢字の併記と解説文が望ましい。

以上のように、スペルミスや語彙の誤り、内容の簡略化などが見られた。今後、内容の理解を深めるためにも、専門的な語彙はその意味をわかりやすく解説する、または、漢字の併記に加え説明文をつけるなど、読み手への配慮が必要ではないだろうか。観光庁（2014：23）は「展示物等に外国の文化や歴史との接点があり、それに言及することが、訪日外国人旅行者が我が国の歴史・文化を正しく理解し、共感・理解を持つことに資する場合には、その文化・歴史についての説明を積極的に盛り込むものとする」という方針を示している。2017年に韓国で『군함도 (軍艦島)』という映画が上映され軍艦島に対する関心が高まっていたが、当時軍艦島に訪れた韓国人観光客は韓国人ガイドが同行しない限り、リーフレットに頼るしかないのが現状であった。軍艦島をはじめ、日本の歴史や文化と深くかかわる施設においては、観光庁の方針に留意し、リーフレットの作成や韓国語の案内解説板などの設置が有益になると考える。

7. おわりに

本研究は、長崎県長崎市の観光施設における多言語対応の現状を調査し、韓国語対応の課題と改善策を試みたものである。長崎市においては、基本的に公共交通施設や観光施設等、その周辺においても名称・名称・標識・サイン・情報系はおおよそ韓国語対応がされていることがわかった。一方、解説系の案内解説板や展示物の解説文においては、韓国語対応がされていないものが多く、また韓国語対応がされていてもスペルミス、語彙や内容が不正確であったり、過度に簡略化されていたりすることが見受けられた。

現在では、訪問先の歴史や文化の情報は簡単にインターネットから得られるが、訪問先の現地において、韓国人観光客にとっては韓国語案内解説板がとても大きな役割を果たすのである。今後、①韓国語案内解説板の増加、②良質な韓国語の表記・表現の対応、③QRコードを使った文字・音声ガイドの拡大、などの改善を図り、日韓両国間のより深い相互理解に繋がることを期待したい。

COVID-19の収束後にはインバウンド外国人観光客が増えてくると予測される。その中にはもちろん大勢の韓国人観光客も含まれる。日本は韓国人にとって気軽に往来できる身近な外国であり、歴史的にも深い係わりがある国である。特に長崎県、福岡県などの北部九州の各県は韓国人観光客に人気のある旅行先であり、観光資源にも恵まれている。日本の歴史や文化を実際に見聞きすることによって、日本をより深く理解しより親しみを持ってもらうためにも、観光資源の案内解説板を韓国語で適切に表示することは、日韓の相互理解に大きく貢献するものであると考えられる。

今回の報告は、展示内容や施設の解説内容の考察においては、一部しかできず、今後は解説内容の詳細な考察を行うとともに、他地域との比較調査も視野に入れ、研究を深めたい。

参考文献

- 井上史雄 (2009) 「経済言語学からみた言語景観—過去と現在」『日本の言語景観』庄司博史 P・バックハウス、F・クルマス編『日本の言語景観』東京：三元社
- 加藤重広 (2009) 「北海道における外国観光客と多言語化—ニセコリゾートを中心に」『日本語学』28-6, 東京：明治書院
- 観光庁 (2014) 「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」
- 庄司博史 (2009) 「多言語化と言語景観—言語景観からなにがみえるか」庄司博史 P・バックハウス、F・クルマス編『日本の言語景観』東京：三元社
- 丁仁京 (2022) 「長崎県の観光施設における韓国語対応の現状と課題」朝鮮語教育学会第 89 回例会, オンライン開催
- 長谷川由紀子 (2021) 「対馬における観光施設の案内板の韓国語概説文の現状と課題」『言語政策』第 17 号, 千葉：日本言語政策学会
- 長谷川由紀子 (2022) 「佐賀県あり田町の観光施設の多言語対応について—有田焼関連施設の韓国語概説にみる課題—」『地域共創学会誌』vol8, 福岡：九州産業大学地域共創学会
- バックハウス (2005) 「日本の多言語景観」真田信治 ほか編『辞典 日本の多言語社会』東京：岩波書店
- バックハウス (2009) 「日本の言語景観の行政的背景—東京を事例として」庄司博史 P・バックハウス、F・クルマス編『日本の言語景観』東京：三元社
- 濱口順子 (2021) 「京都市における言語景観及びサインの施策と特徴」『観光学論集』16, 長崎：長崎国際大学国際観光学会
- 藤井久美子 (2014) 「言語景観から考える観光と多言語状況」『人文科学』29・30, 宮崎：宮崎大学教育文化学部紀要
- 本田弘之、岩田一成、倉林秀男 (2017) 「町の公共サインを点検する外国にはどう見えるか」東京：大修館書店
- 松田美春 (2009) 「ONSEN まちの言語事情」『日本語学』28(6), 東京：明治書院
- 山川和彦 (2010) 「日本の観光政策における言語の扱いに関する一考察」『麗澤大学紀要 第 90 巻』千葉：麗澤大学
- 李炫姫 (2018) 「沖縄における韓国人観光客への言語対応の現状 (その二) —地域性を

考慮した整備に向けて一」『外国語研究』第22巻，沖縄：沖縄国際大学
李炫姫（2019）「沖縄観光における韓国語の言語景観－他地域との比較調査から－」『産
業情報論集』第15巻第1-2号，沖縄：沖縄国際大学産業情報学部

観光庁 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>

ながさき旅ネット <https://www.nagasaki-tabinet.com/>

travel nagasaki <https://www.at-nagasaki.jp/>

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 <https://kirishitan.jp/>

おらしょー ころろ旅 <https://oratio.jp/>

長崎県観光統計 <https://www.pref.nagasaki.jp/>

外海観光サイト <http://www.kanko-sotome.com/meguru/meguru12/>